

## ◇『伝えることができるキーポイント～なぜ、伝わらないのか～』 理事 木田洋一

放送局などメディアで企画や番組にするとときに、大事な基本は「へえ～」 「ほ～」 「なるほど」 「えっ」があるか、そう感じてくれるようにできるかです。

人はこれらの要素があると、見てみよう、読んでみようと思いますよね。いわゆる掴みもそのひとつです。そして伝えたい情報がある場合、掴んだら、そのあと一番言いたいことを伝えるのが構成です。

まず、その話の中にその要素（ネタ）があるかどうかを見極めるのです。ネタとは、種の倒語らしいですが、要は種、要素です。その要素を探し出していかに、どのタイミングで使うか考えることが大事になります。山のように情報がある中で、それを瞬時に考える能力が問われます。

生番組のタレントたちのコメントもまさにこの力です。漫才のように、練りに練ったネタもありますが、これは番組のコンセプトなどを考えるのと同じで、基本は同じです。

では、どうしてやって見極めるかですが、視聴者、つまり一般の人が、知らないことでないと「へえ～」 「なるほど」 などにはなりません。つまり、大多数の人が知らないというレベル、物差しが大事なのです。

この物差しが、同じような仕事をしている人ばかりがいる中では、物差しの業界基準になっているから、会社の広報をする時に気づかないのです。つまり自分たちが、凄い！ きっと「へえ～」 「えっ」 「なるほど」 「ほ～」 と思ってもらえると思っても、物差しの違うままでは伝わらないのです。いわゆるすべっているのです。

放送局の人間だって同じで、番組で失敗するのも自分たちの基準でやってしまっただけで、世間の物差しとズレが生じてしまったのです。

では、どうすればいいのかは次回に。

## ◇『ピアノとギターで情報発信』

代表理事 竹原信夫

どうすれば人に伝えられるか？ 聞いてもらえるか？ 経営者にとっては、経営戦略と同じほど重要なテーマです。

まさに、日本広報支援機構が取り組んでいます広報戦略です。ここで1つの大きな誤解があります。

皆さんは発信したい情報の中身、内容ばかりを気にされます。でも、実際はそうではありません。それ以外の要因も大きいのです。

例えば講演会での講師がいくら良いことを言われても、服が汚れていたり、演台に肘をついて話していればどうでしょう？ なんやこの人はと、せつかくの良い話もダメになります。

話す内容ではなく、話す姿勢、話し方も大きく影響するのです。広報で言うと、分かりやすく整理して発表するのも良いですが、姿勢や話し方ももっと大事です。

先日は面白い伝え方をされている2人の社労士先生取材しました。コロナの給付金申請や難しい労働基準法の解説を作詞、作曲。デュエットで伝えておられました。

YouTubeで発信され、人気だそうです。ギターとピアノでも情報発信ができるということ。

やわらか頭で広報戦略を進めましょう。

### ポイント

- ・ 広報は情報の中身だけではない
- ・ 音楽で伝える
- ・ やわらか広報を考える